| 受験番号 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 氏名 | | | | | | |

# 二〇一九年度　教育学部学士入試　問題用紙

## 「小論文」国語国文学科

No. 1

【問題一】　次の文章は『新日本文学』（一九五三年一〇月号）の特集「闘病者の文学」に言及した文章である（荒井裕樹『隔離の文学』書肆アルス、二〇十一）。この文章を読んで以下の問いに答えなさい。

この特集の各記事は概して以下の三点において共通している。一つ目は病気を社会的な構築物として捉えている点である。つまり結核などの蔓延は貧困や社会矛盾などに起因するのであるから、患者は病気になったことにおいて道義的な責任はなく、その責任は国家や社会に帰されるべきであるという認識である。二つ目は「科学」への信仰とそれに基づく社会変革の必要性を説いている点である。つまり、それまで不治とされた結核やハンセン病は医学の進歩により治癒可能となったのであり（当時、結核はストレプトマイシン、ハンセン病はプロミンの登場により劇的に治療効果が向上した）、患者にとって闘病の主眼は、新憲法に基づいて権利を主張し、また社会変革を促すことにあるという認識である。そして三つ目が、文学は病苦を個人の内に閉塞させるのではなく広く社会へと開き、病者の立場から民主的な世界への道筋を示す役割を負うべきであるという主張である。

中でも瀬木慎一の指摘に注目したい。瀬木は「療養文芸」と呼ばれる作品群の中に、諦観や感傷に塗り込められて病気と社会の関連性を捉えようとしない作品が多いことを指摘し、それらの文学および文学の指導者たちを次のように批判する。

そのような生活態度からかかれた作品に対して、療養文芸のほとんどの選者たちは、かれらを正しい認識の方向へ導いていこうとしないばかりか、逆に、それを奨励したり、慰めたりしていることは、重大な問題をはらんでいる。率直にいって、その人々たちは、闘病者たちに文学の毒をもつているという、又、社会的な自殺をあたえているという、見逃せない一つの愚民化政策を行つているのではないか。（九八頁）

つまり「療養文芸」には、諦観の美学や病苦の感傷性を否定し（それらを詠むだけの文学は「社会的な自殺」であり「文学の毒」であり、そのような文学を指導することは「愚民化政策」であるという）、民主的な世界を切り開くための貢献（＝「正しい認識」）が求められた部分が少なからず存在したのである。戦前と戦後の断絶を図り、戦前的価値観を戦後的価値観によって粉砕するためには、前者の不当さと後者の尊大さを対比する必要がある。その際、前者の中では〈負〉の価値付けをされた者が、後者の中では燦然と輝くといった価値転換のパトスを演じてみせることほど有効な手立てはない。新薬という科学の力によって、不治という暗黒から治癒という光明へと転生して見せた療養患者たちは、民主主義を彩る価値転換のパトスを、文字通り身体をもって演じて見せる存在として期待されたのであった。

問一　文中の傍線部「前者の不当さと後者の尊大さ」とあるが、どういうことか。具体的な例を示して分かりやすく説明しなさい。

問二　病や患者を素材とした近代以降の小説を一つとりあげて、この文章における主張の中でどのように評価、または批判できるのかを具体的に論じなさい。

| 受験番号 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 氏名 | | | | | | |

# 二〇一九年度　教育学部学士入試　問題用紙

## 「小論文」国語国文学科



【問題二】次の文章は『宇治拾遺物語』の一節である。この文章を読んで、後の問いに答えなさい。

これも今は昔、治部卿通俊卿、後拾遺をえらばれける時、秦兼久、行向て、をのづから歌などや入る、と思て、うかゞひけるに、治部卿いであひて、物がたりして、「いかなる歌かよみたる」といはれければ、「はか〴〵しき歌候はず。後三条院、かくれさせ給てのち、円宗寺に参りて候しに、花の匂い、むかしにもかはらず侍しかば、つかうまつりて候しなり」とて、

「こぞ見しに色もかはらず咲きにけり花こそ物は思はざりけれ

とこそ仕つりて候しか」といひければ、通俊卿、「よろしくよみたり。たゞし、「けれ、けり、ける」などいふ事は、いとしもなき言葉なり。それはさることにて、「花こそ」といふ文字こそ、女の童などの名にしつべけれ」とて、いともほめられざりければ、言葉すくなにて、立て、侍どもありける所によりて、「此殿は、大かた、歌のありさま知り給はぬにこそ。かゝる人の撰集うけ給はりておはするは、あさましき事かな。四条大納言の歌に、

春来てぞ人も問ける山里は花こそやどのあるじなりけれ

とよみ給へるは、めでたき歌とて、世の人口にのりて申めるは。その歌に、「人も問ひける」とあり、又「やどのあるじなりけれ」とあめるは。「花こそ」といひたるは、それにはおなじさまなるに、いかなれば四条大納言のはめでたくて、兼久がはわろかるべきぞ。かゝる人の、撰集うけたまはりてえらび給、あさましき事也」といひて、出にけり。

侍、通俊のもとへ行て、「兼久こそ、かう〳〵申て、出ぬれ」と語りければ、治部卿、うちうなづきて、「さりけり、〳〵。物ないひそ」とぞ、いはれける。

問一　登場人物の、藤原通俊（治部卿通俊卿）と秦兼久とは、それぞれどのような性格の人物として描かれているか。本文の細部に注意しながら、現代のことばでわかりやすく述べなさい。

問二　この話の面白さはどこにあるか。話の流れを要約した上で、自分がこの話の面白さについて分析し考えたことを、具体的に述べなさい。

【注意事項】

1　必ず【問題一】【問題二】の二問とも解答すること。

2　解答はすべて「解答用紙」に記入すること。

3　「解答用紙」は、【問題一】【問題二】に分かれて、それぞれ一枚づつ、合計二枚ある。
　【問題一】【問題二】とも、「問一」「問二」とそれぞれ記入した上で、解答をまとめること。

4　「解答用紙」は裏面も使用することができる。

| 受験番号 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 氏名 | | | | | |

二〇一九年度　教育学部学士入試　解答用紙

「小論文」　国語国文学科

| 採点欄 |
|---|
| |

No. 1

【問題一】

裏面使用可

ここから下には記入しないこと ↓

ここから上には記入しないこと

| 受験番号 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 氏名 | | | | | |

二〇一九年度　教育学部学士入試　解答用紙

「小論文」国語国文学科

| 採点欄 |
|---|
| |

【問題二】

裏面使用可

以以外の者に対する↓

以以外の者に対する